



株式会社ジェイアール東日本マネジメントサービス

株式会社ジェイアール東日本マネジメントサービス

JR東日本グループにおける適切な会計処理、グループ全体の経営資源の効率化、業務の標準化、人材の育成・活用をめざして設立。財務業務のエキスパートとして直接経営をサポート、決算の質的向上と人材育成に取り組んでいる。

本社：東京都渋谷区代々木2丁目2番2号
JR東日本本社ビル14階
設立：1998年4月1日
資本金：80百万円
従業員数：287名(2015年2月現在、非常勤除く)
URL：http://www.jre-jems.co.jp/

(取材日：2015年9月)

POINT

Chromebook で
Google Apps の活用促進

1

Ericom AccessNowで
Chromebook から
Microsoft Officeを利用

2

ペーパーレス会議の実現、
社内のIT活用機運が向上

3

会議のペーパーレス化と Google Apps の活用促進 Chromebook とAccessNowで実現 全社IT活用機運まで向上

JR東日本グループの財務業務を支援する株式会社ジェイアール東日本マネジメントサービスでは、会議のペーパーレス化のために社内標準の Google Apps for Work™ と相性の良い Chromebook™ を導入。Chromebook をより便利に使うため、Ericom AccessNow を導入してMicrosoft Officeも使えるようにした。会議のペーパーレス化だけでなく、業務効率も改善され、もっとITを活用して働き方を変えようという機運が醸成された。その先に見据えるのは働き方そのものの変革だ。

課題

対策

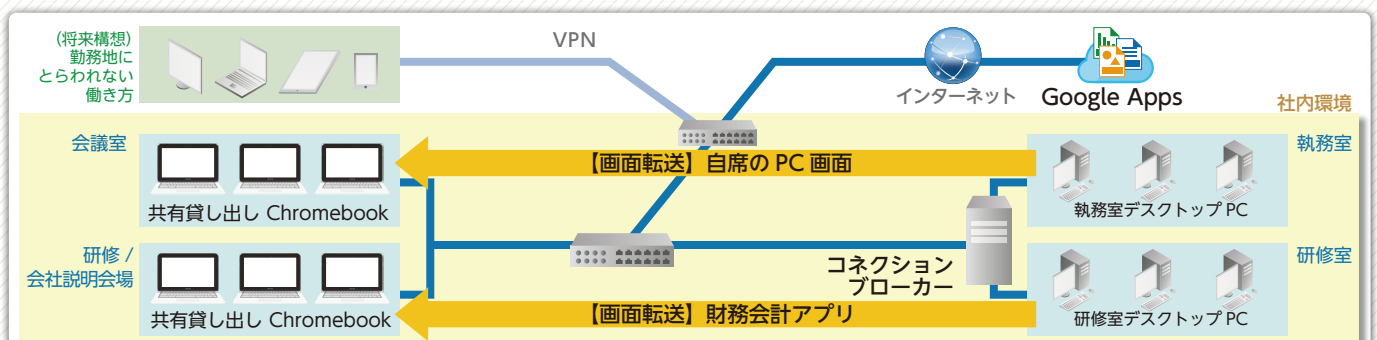
効果

- 紙を多用する会議
- 導入されたものの活用が進んでいなかった Google Apps for Work
- 自社オフィス外で勤務する多くの社員の存在、多様なワークスタイルを支援する取り組みとして、柔軟な働き方を検討

- Google Apps for Work の活用とペーパーレス会議の実現のため、Chromebook を採用
- Chromebook からWindowsアプリを使うためにEricom AccessNowを採用

- 共有の Chromebook を使ったスマートな会議スタイルが実現
- Google Apps for Work の利用促進による情報共有と業務の効率化
- 社員の世代を問わず、全社にITを活用する機運が醸成
- 勤務地に囚われない働き方の基礎固めが完成

システム概要



Ericom AccessNow

契機は会議のペーパーレス化 働き方そのものが変わる兆しも

ジェイアール東日本マネジメントサービス（以下、JEMS）は、JR東日本グループの財務業務を包括的に担う機能会社である。社員の半数にあたる約150名が69のグループ会社に常駐して勤務、日常の帳票作成から決算業務、税申告まですべての財務業務をサポートしている。同社のミッションは経営に資する財務業務の提供で、スローガンは「数字と心でグループをつなぐ」だ。

事の起こりは、親会社である東日本旅客鉄道株式会社（以下、JR東日本）で始まった1つの施策だった。会議専用タブレット端末iPadを使い、会議のペーパーレス化を導入したのだ。JEMSのトップも優れたアイデアであるとして、経営企画やIT業務を担当する同社企画部に対し導入を示唆した。

実際、会議における紙の多用は同社にとって課題となっていた。一度の会議で、A4にして十数枚の資料、20名参加するのであれば20セット必要になる。事前に出力して1セットずつ綴じるといふ準備が必要で、資料が差し替えということになれば、また一から印刷・セットのやり直し。紙の無駄も出る。株式会社ジェイアール東日本マネジメントサービス 企画部 主任 安藤史顕氏はこう語る。

安藤氏 私は企画部の中で環境担当でもあるのですが、1998年の設立当初から、当社は照明のLED化など様々な環境活動に力を入れてきました。会議のペーパーレス化はまさに恰好のテーマでした。



安藤史顕氏

この取り組みはまた、将来的なワークスタイル変革への布石になると考えました。当社の社員の6割は女性で、出産・育児で休職するものも多い。この機会にITを駆使したワークスタイルの未来像を探ることになりました。

Chromebook でのWindowsアプリ 利用にEricom AccessNow

当初は親会社にならい、ペーパーレス化用の端末としてiPadを想定する一方で、4年前に社内標準として導入したクラウド型グループウェア Google Apps for Work が十分に活用されて

いない現状を変えることができないかと思案していた。そこで両方の課題を一挙に解決する端末として浮上したのが Chromebook だった。これを会議開催時に配布し、出席者が Googleドライブ上のファイルを共有しながら会議を進める。イメージはすぐ固まった。しかし、共有するファイルに少々問題があった。同社は財務業務受託企業であるため、マクロを組み込んだExcelファイルや書式が定型化されたWordファイルを多用する。マクロを多用している場合、変換時に崩れることがあった。これは困ったと頭を抱えかけた時に、同社のシステムインテグレーターである電算システムが、クライアント仮想化ソリューションのEricom AccessNowを紹介した。これを活用すれば、会議室から ChromebookのChromeブラウザを使って自席のデスクトップPCにアクセスし、Microsoft Officeファイルの閲覧・編集や、Windowsネイティブの財務アプリケーションを使うことができるという。ブラウザからリモートアクセスするのであれば表示パフォーマンスや使い勝手に難があるのではないかと疑っていたが、AccessNowのデモンストレーションを見て不安は消えた。リモートで実行されているMicrosoft OfficeのWordやExcelが、ローカル端末で実行しているかのように使うことができたのだ。

安藤氏 ブラウザからEricomのサーバにアクセスしてIDとパスワードを入力するだけで使うことができるので、簡単な手順書さえ用意すれば、誰もがすぐに使えると思いました。これは大きかったですね。別途研修が必要なソリューションだったら採用できませんでした。私たちもそこまでの労力は割けないし、当社の社員も多忙ですから。

JEMSのシステム担当の背中を押した要因がもう1つあった。AccessNowの検討時、安藤氏らは別件で大手キャリアを訪れた。そこでEricom AccessNowをベースにしたソリューションを展開していると聞いたのだ。これほどの大手が採用しているのだから、将来性には疑いの余地が無いと考えた。

最大の導入効果は全社に IT活用機運が根づいたこと

JEMS経営陣から正式にGOサインが出たのは2015年2月。電算システムはさっそくChromebookとWindows PCを仲介するEricomのコネクションブローカーをインストールする作業に入った。サーバは今まで給与システムとして

使っていたものを再利用したため、コストを圧縮できた。システム全体の導入作業は1ヵ月もかからずに完了した。

現在、Chromebookは、本社に20台、グループマネジメント事業本部のある新宿光風ビルオフィスに10台導入され、会議の際に自由に持ちだして使われている。Chromebookはクラウドの管理ツールであるChrome管理コンソールによって管理されており、社内の無線LAN環境下のみで動作するように設定されているため、社外に持ち出しでの利用は不可能だ。

本格導入から5か月、同社の会議スタイルは大きく変化した。出席者は資料をGoogleドライブに事前にアップロードして共有する。Microsoft Officeを使う際にはChromebookから自席のデスクトップにアクセスし、機能制限の無い環境で会議を進行できるようになった。株式会社ジェイアール東日本マネジメントサービス 企画部 主任 飯島宏樹氏は次のように語る。

飯島氏 この仕組みのおかげで会議の準備に時間を取られなくなりました。また、会議以外でもChromebookを活用しています。例えば社員採用会社説明会では、出席者の席上にChromebookを配置し、Googleハンガアウトでプレゼン画面を共有したり、Ericom AccessNowで研修PCにアクセスして財務アプリケーションの使い方を紹介しています。今まで研修用PCを会場に持ち込んでいたのを考えると、かなりスマートになりました。



飯島宏樹氏

会議のペーパーレス化を皮切りに、全社的なペーパーレス化も着実に実現している。しかし今回、ChromebookとEricom AccessNowを導入した最大の効果は、ITを活用しようという機運が全社に根づいたことだった。実は、これは想定していないことだった。

世代を問わず多くの社員から新しい活用提案が寄せられることに、導入を進めた企画部も確かな手応えを感じている。今後は働き方そのものの変革も視野に入れて更なる活用を検討することになるが、すでにしっかり基礎は固まっているようだ。

お問い合わせは **株式会社アシスト**

URL: <http://www.ashisuto.co.jp/product/category/virtualization/ericom/> E-Mail: eri_web@ashisuto.co.jp

東京 〒102-8109 東京都千代田区九段北4-2-1 市ヶ谷東急ビル	TEL:03-5276-3653	大阪 〒530-0011 大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪タワーA 13F	TEL:06-6373-7113
札幌 〒060-0003 札幌市中央区北3条西4-1-1 日本生命札幌ビル13F	TEL:011-281-1161	広島 〒730-0011 広島市中区基町12-3 COI広島紙屋町ビル 3F	TEL:050-3816-0974
仙台 〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-20 花京院スクエア 19F	TEL:050-3816-0970	福岡 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-6-1 九軌筑紫通ビル 9F	TEL:092-481-7156
名古屋 〒460-0003 名古屋市中区錦1-11-11 名古屋インターシティ 4F	TEL:052-232-8211	沖縄 〒900-0014 那覇市松尾1-10-24 ホークシティ那覇ビル4F	TEL:050-3816-0976
金沢 〒920-0853 金沢市本町2-15-1 ポルテ金沢 8F	TEL:050-3816-0972		